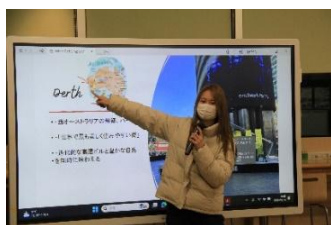


グローバル・カフェ 留学報告イベント(西オーストラリア大学英語教育センター) を開催しました

2025 年 1 月 24 日、留学報告イベント(西オーストラリア大学英語教育センター)を実施しました。2024 年 8 月から 5 週間、西オーストラリア大学英語教育センター(The University of Western Australia, Centre for English Language Teaching (以下、UWA CELT))にて、英語語学研修プログラムに参加した 8 名のうち 7 名(田邊さん、荒川さん、緒方さん、池上さん、福岡さん、山崎さん、高橋さん)が、現地での授業の様子や生活などを紹介しました。日本人学生 9 名、教職員 2 名の計 11 名が参加しました。



UWA CELT は西オーストラリア大学付属の英語学校で、一般英語、アカデミック英語、IELTS 試験対策コースの 3 つのプログラムのほか、インターンシップや国際交流イベントを提供しています。

8 名が参加したのは、5 週間で 1 ターム制の一般英語プログラムで、授業は平日午前 8:30 から 10:30 と午前 10:45 から午後 12:45 の 2 コマ実施されます。事前にオンラインレベル分けテストを受け、英語レベルに準じて、クラスが決定するシステムとなっていて、高橋さんは毎週 Writing, Reading, Listening, Speaking のテストがあり、こまめにフィードバックを受けることができたという。一方、15 人前後のクラスメートが全員日本人だったことから、自ら行動を起こさなければ成長できないと感じたと話しました。



山崎さんのホームステイ先では、二人の子どもがいる家庭であったこともあり、週末は子どものサッカーの試合観戦、BBQ、ビーチ、ショッピングなど家族とともに外出することが多かったそうです。ステイ先の家族は、山崎さんを本当の家族の一員のように迎え入れてくれて、毎日一緒に過ごすうちに Speaking と Listening の向上が実感できたと振り返りました。

池上さんのホストは一人暮らしの女性でしたが、週末は UWA CELT のクラスメートらを夕食に招いて、カードゲーム大会を開いてくれたり、ランチを持って公園へピクニックに出かけたとのこと。ホストマザーと友人たちでコアラやカンガルーと触れ合える Caversham Wildlife Park(動物園)、月面観察ができる Perth Observatory(天文台)へも足を伸ばし、西オーストラリアの大自然に圧倒さ



れたと話しました。



UWA CELT から 10 キロほどの港町 Fremantle からフェリーに乗って約 30 分で行ける Rottnest 島を訪問したという荒川さんは、ターコイズブルーの海に感動したと続け、自転車をレンタルして島を一周したり、オーストラリア南西部に生息するクオッカと呼ばれる動物と触れ合えたりと、Perth は都市と自然とが共存する街であったと付け加えました。初めての海外での生活だったが、街では様々な国籍の食べ物、文化、言葉が入り交じっていて、多国籍の人々が互いの文化の違いを尊重し合い、共生していることを体感できたそうです。



田邊さんは出発前から「挑戦の 5 週間にしたい」と決めていたと話し、UWA CELT から 20 キロほど離れたところに位置する Curtin University で活動している「Curtin Japanese Club」を訪ね、定期的に行っている Language exchange や BBQ に積極的に参加したそうです。交流には毎回 40～50 名ほどが参加していたそうで、日本語、日本文化、アニメの話に花が咲いたとのこと。世界各国の同世代の友人ができ、休日には一緒にピクニックやビーチで時間を過ごし、交流を深めることができたと言いました。さらに、趣味である社交ダンスも現地で練習したいと考えていた田邊さんは、ホストファミリーの協力を得て、地元の社交ダンスクラブへの参加も実現したようで、無理だと決めつけずに、何事もどんどん挑戦していくことが大切、チャンスは自分で掴むものだと言明し、挑戦したことが自信に繋がったと力強く語ってくれました。



参加者から「現地で戸惑ったことはありましたか？」との質問があり、発表者からは、ホームステイ先でのルールとして「洗濯は週に一回」「夜 9 時には消灯」等があったことや、バスに乗っていたところ、寝過ごしてしまい、運転手に気づかれることのないまま終点が過ぎ、右も左も分からない場所で降ろされた、近くのバス停から乗り継ぎ、何とか帰ることができたというエピソードのほか、通学用に現地のバスカードを購入し、現金を多めにチャージしていたにも関わらず、紛失してしまい慌てた。(後日バス会社に問い合わせ、落とし物として届けられていて事なきを得た) 等の話がありました。

各々、戸惑いはあったようですが、この戸惑いを経験することが成長に繋がった、ぜひ留学に挑戦して欲しいと、参加者の背中を押しました。

